

第1章 序論

1-1 研究の背景と目的

ヘルスケア施設は、これまでどちらかといえば機能性や清潔感が求められ、人工的な素材や空調、照明に覆われ、色彩や素材感、自然環境に乏しい閉鎖的な人工環境となる傾向があった。

しかし、Cama の研究¹⁾にもあるように、1990年代半ばから、EBD(根拠に基づく設計)の重要性に対する理解が進みヘルスケア環境は劇的に変化してきた。たとえば、Ulrichら(1984)の研究²⁾では、外部空間と治療の回復の関係について示されたが、このことによりヒーリングガーデンが設計に取り入れられるようになってきた。また子どもの療養環境についても、数多くの議論がなされ、小児専門病院でもホスピタルアートが取り入れられ「病院らしさ」を取り除く努力が行われている。しかし、こと外部空間の環境に限って言えば未だに十分な試みがなされているとは言えず議論の余地がある。

そこで、子どものヘルスケア施設におけるヒーリングガーデンの計画に関する指針を、設計者の立場からみて明らかにすることを目標とし研究を進める。

1-2 用語の定義

ヒーリングガーデンは、Cooperら(2013)³⁾の定義によると、利用者が思いのまま庭で過ごすことによって回復の効果があるものと、園芸療法士などの専門家の介在によって治療の効果が得られるものがあり、本研究では、上記どちらかの性質をもつものをヒーリングガーデンと定義する。また、ヘルスケア施設はなんらかの医療ケアを受けられる施設を指す。

1-3 研究の手法

Cooper&Naomiによる文献”Therapeutic Landscapes”からヒーリングガーデンの設計の原則と設計ガイドラインを得る。ランドスケープアーキテクトの先駆的研究者であるClare Cooper MarcusとNaomi A. Sachsにより2013年10月に出版された。この文献は、ヘルスケア施設のヒーリングガーデンにかかわるクライアントと資金提供者、そしてランドスケープの建築家にむけて向けて執筆されており、ヘルスケア外部空間への注意の喚起・EBDの重要性・様々なケーススタディ・研究ベースのガイドラインを示したものである。

また、文献中のガイドラインに関する項目を着眼点とし、より踏み込んだヒーリングガーデンの計画に言及するため、国内外のヒーリングガーデンの事例を分類・分析し、面積規模と平面構成の計画についての指針を明ら

かにする。そして、利用観察調査から利用者の行為を誘発する物的要因を明らかにする。(表1)表1内の着眼点とは、2章で得られる設計ガイドラインの項目の事である。

表1 研究の手法

| 言及する設計手法 | 対象事例 | 調査手法 | 着眼点 |
|----------------|------------------------------|----------------------------------|----------|
| 面積規模とサブスペース | 1990年代以降設立の9施設 ²⁾ | 歩道やサブスペースの有無による事例分類と面積規模の関係を分析 | i) ii) |
| 歩道計画と平面エリア | 上記施設中、施設内部空間で歩道のあるもの7施設 | 事例により、歩道と平面エリアの形態の分析 | i) ii) |
| 遊びの機会を誘発する物的要因 | A小児専門病院、ホスピタルフォレスト | 実際の利用者の観察から遊びの機会の物的要因がある場面を抽出し分析 | iii) iv) |

1-4 論文の構成

論文の構成は図1に示した通りである。第1章は序論とし、第2章では”Therapeutic Landscapes”のガイドラインについて紹介をし、3章と4章の分析における着眼点としている。

そして、第3章ではヒーリングガーデンの規模計画と平面構成について、第4章では、利用行為における物的要素への影響についてそれぞれ解説した、最後に第5章

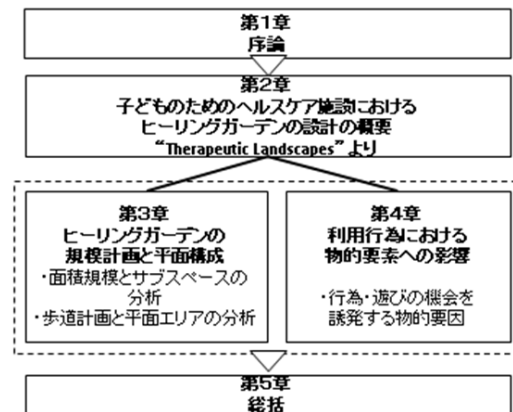


図1 論文の構成

で総括を行っている。

第2章 子どものためのヘルスケア施設におけるヒーリングガーデン設計の概要

2-1 本章の目的

本章では、子どものためのヘルスケア施設の設計概要を把握し、分析の着眼点となる文献中³⁾のガイドライン項目を得ることを目的とする。

2-2 子どものためのヘルスケア施設におけるヒーリングガーデンの特徴

一般的ヒーリングガーデンと比較して、こどものためのヘルスケア施設のヒーリングガーデンの特徴はCooperら³⁾とMoore(1992)⁴⁾による記述から、「利用者の対象広いこと」・「子どもの発達のための遊びの機会を考慮すべきこと」の2つが特徴的なことだと考えられる。

2-3 設計ガイドライン

ヒーリングガーデンの設計ガイドライン³⁾として文献内で200以上もの項目がある。その中から、子どものた

表 2 平面・空間エリアの形態分類

| 平面・空間エリアの形態分類 | 特徴 | 平面・空間エリアの形態図 |
|---------------|---------------------------------------|--------------|
| 人の入らない庭 | 人が入らない庭で、屋内からの眺望に使われる庭 | |
| 単一空間の庭 | 人が使用することができるが、道による平面の分割がない庭 | |
| 道のみの単一空間の庭 | 道のみの庭 | |
| サブスペースがない庭 | 道があり、道により分割されたエリア間の視界が見渡せる庭 | |
| サブスペースがある庭 | 道があり、道により分割されたエリア間の視界が植栽や壁などで仕切られている庭 | |

表 3 面積規模とサブスペースに関する分類

| 形態の図 | 施設内部空間 またはそれに準ずるもの | | | | | | | | | | | | | | | 施設外部空間 | | | | | | |
|------------|--------------------|----|----|-----|----|----|----|----|----|-----|----|-----|-----|----|-----|--------|-----|-----|-----|-----|-------|--------|
| | 17 | 11 | 12 | 15 | 14 | 4 | 1 | 16 | 3 | 7 | 2 | 6 | 20 | 5 | 1 | 10 | 21 | 9 | 13 | 18 | 8 | |
| 形態の図 | 見る庭 | 中庭 | 中庭 | 見る庭 | 中庭 | 中庭 | 中庭 | 中庭 | 中庭 | 隠れ庭 | 中庭 | 屋上庭 | 屋上庭 | 中庭 | 屋上庭 | パワック | 風景的 | 散歩道 | 風景的 | 風景的 | 約7200 | 約30000 |
| 人の入らない庭 | (a) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 単一空間の庭 | (b) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 道のみの単一空間の庭 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| サブスペースがない庭 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| サブスペースがある庭 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

めのヘルスケア施設の特徴としてあげられる、「利用者の対象が広いこと」・「発達のための遊びの機会」について関連が深いと判断される項目を本節で紹介する。

「利用者の対象が広いこと」に関連が深い項目の判定方法として、Cooper らの記述内でのキーセンテンスである “a variety of users may be seeking quite different things in an outdoor space” を「一つの庭に様々な人が使える場所を提供する」といった意味で類似する一語の “subspace” という表現に置き換えて、語句 “subspace” がガイドラインに現れる項目を検索した結果 i)、ii) の二つに絞られた。

「発達のための遊びの機会」に関しては、Moore による記述内にキーワードとして現れる “play opportunity” という語をガイドラインに現れる項目を検索した結果 iii)、iv) の二つが絞られた。ここでは筆者が訳して要約したものを以下で紹介する。

- i) たくさんの質違ったサブスペースがヒーリングガーデン内にあること。それらは植物・歩道・建物によってつくられ、コントロール感覚を促し、社会的支援の場提供ともなる。
- ii) サブスペース・キャノピー・プライバシースペースをつくるために植物を有効利用すること
- iii) 「アフォーダンス」の概念につながる、活動的な遊びの機会をデザインすること。
- iv) 回遊性のあるスロープや、ジャンプできる岩や丸太など、探索や遊びのための機会を訪れた子供たちに提供すること

2-5 ヒーリングガーデンの形態

本論で使用するヒーリングガーデンの形態は、表 4 を参照する。本表の「Therapeutic Landscapes の分類名」は、文献³⁾からの引用を使用し、定義は文献をもとにした筆者の翻訳である。簡易的な名目をさらに記した。本研究において、3章でヒーリングガーデンの形態を使用する。

第3章 ヒーリングガーデンの規模計画と平面構成

本章では、面積規模・サブスペース、歩道・歩道によって分割される平面エリアについて着目し、ヒーリングガーデンの各事例を分類・分析を行う。

3-1 面積規模とサブスペースに関する分析

3-1-1 調査概要

それぞれの事例を、平面・空間エリアの分割の有無から表2の形態分類に基づき分類し、面積規模とサブスペースに関して考察をのべる。

平面エリアの定義を、歩道により分割された平面とする。サブスペースの定義を、平面エリアに分割されており、さらに視界が植栽・建物により遮られていることとする。平面エリアにおいては、平面図を参考にし、サブスペースにおいては、写真によって判定した。

3-1-2 分析と考察

表3において面積規模の小さい(a)は、人が入らず歩道もない空間の庭であり、見るための庭であった。(b)人は入るが歩道のない空間の庭であった。人は入ることができるが平面エリア分けはされていない庭の利用用途は静的な物か活動的な物かどちらか一つに絞られるところが共通していた。(d)は、平面エリアも複数に分かれ、さらに植栽でサブスペースも複数に分かれるヒーリングガーデンが増える傾向にあり、複数の質の違ったサブスペースをガーデン内に作ることが可能である。一方で、(d)より面積は大きく平面分割はされているのにサブスペースがない事例(e)もみられた。(d)と(e)の違いが見られた要因としては、ガーデンのコンセプトの違いによるものではないかと推測できる。例えばガーデン20のコンセプトの比重は癒しや眺望に重点があり、一方でガーデン5は、サブスペースが植栽等で5つに分けられ、活動的な部分と静的な部分を合わせもった庭となっている違いが見られ、サブスペースの有無は面積によるというよりは、設計時のコンセプトによると考えられる。

表 3 ヒーリングガーデンの形態

| Therapeutic Landscapesの分類名 | 定義 | 呼び名 |
|------------------------------|--|---------|
| Extensive Landscaped Grounds | 外からまたは室内から見ると、風景のように見えるが、使用されている空間の事 | 風景的庭 |
| Borrowed Landscape | 眺めとして利用する景色 | 借景 |
| Nature and Fitness Trails | 自然歩道とエクササイズのための小道のあるHG | 散歩道 |
| Landscaped Setback | 道路等との緩衝用としてのHG | 緩衝庭 |
| Front Porch | 正面玄関のためのポーチ、床材はハードである | フロントポーチ |
| Entry Garden | エントランスの近くにある、バスやタクシーを待つ等するためにつくられた緑のあるHG | エントランス |
| Backyard Garden | 位置の性質によるもので、施設裏にあるガーデン。少しプライベートな性質をもつ | バックヤード |
| A "Tucked Away" Garden | 道や室内からは緑の壁などで視線を遮っている公園のような場所 | 隠れ庭 |
| Courtyard | 窓や壁が四面にあるHG | 中庭 |
| The Hole-in-a-Donut Garden | 中庭の一種だが、より大きく緻密に設計されている。ラウンドの中に入ることができるHG | ドーナツ庭 |
| Plaza | 大部分がハードな素材(石・コンクリート)で覆われた、広場。全体が緑のイメージでないが、木や草花が植えられることもあるHG | 広場 |
| Roof Garden | 建物の屋上に作ったHG | 屋上庭園 |
| Roof Terrace | 屋上庭園ではなく、建物の側面にそってあるテラスガーデン | 屋上テラス |
| A Peripheral Garden | 敷地に制限があるとき、狭い緑のスペースで建物おの周りに取り囲んでいるHG | 周辺庭 |
| Atrium Garden | 年間を通して気候がすぐれない土地などで、室内につながるHG | アトリウム |
| Viewing Garden | スペースや予算が限られているとき、入ることはできないが、建物内からみるための小さなHG | 見るための庭 |

3-1-3 設計手法

サブスペースの有無に関して、面積が小さいところは物理的に空間の分割が難しいが、歩道が作れる程度に面積がある場所に関しては、設計のコンセプトの違いによる部分が大きいと考えられる。サブスペースの有無に関して、Cooper らもガイドライン i) ii) において、「サブスペースは植物・建物・歩道によって形成される」と述べており、歩道確保のための面積がある程度以上必要だと確認された。

3-2 歩道計画と平面エリアに関する分析

3-2-1 調査概要

本章では、サブスペースを形成するための歩道の条件とはなにかを調査するために、各対象ヒーリングガーデンの平面図から (a) 歩道計画 (b) 平面エリアに関してそれぞれの施設の特徴を分類し、分析する。

3-2-2 事例分析

①米S子ども病院の‘Gardens Dreams’ (図 2.3.4)

本ヒーリングガーデンは、動物モチーフのヒーリングアート(図 4)が隅々まで施された子どもたちにとって親しみが持てる場所である。ガンセンターと手術部門の間の移動空間としての利用もあり、東西間の矢印のような人の流れがある。本ヒーリングガーデンの歩道の形態は、平面空間に植栽を置くことで歩道が形成されている。また、南に面する居室からは直接庭に出ることができ、セミプライベートの空間である。本ヒーリングガーデンの特徴は、椅子の置かれたサブスペースの取り方にある。図 2 中 b では、動線から少し南にずれた場所に植栽による緩衝材がおかれそれによって、休憩のためのサブスペースができています。このサブスペースは、動線の妨げにならないところで休憩を取ることができ、通行が目的でない利用者も落ち着いて過ごすための工夫であると考えられる。

②ガーデン7、米Rリハビリ専門病院の小児病棟の‘The Children’s Play Garden’ (図 5.6.7)

本ヒーリングガーデンの特徴は、大きく周りを囲んだ円形の道と、そして丘の上の目的地に向かう3ルートでの難易度の違った歩道があることである。敷地の高低も一体となった歩道が形成されており、子供たちが自主的に目的地に行くためのルートを選択し、達成感を得られると考えられる。

③ガーデン5、米L子ども病院の‘The Children’s Garden’ (図 8.9.10)

本ヒーリングガーデンはガラスの廊下によって2面を囲まれた中庭である。限られた面積ながら、5つのサブスペースを持つ。特徴的なのは、サブスペースの取り方のバリエーションであり、図中 a・b のような歩道を拡張したノード型や、図中 e のように歩道に囲われてできているサブスペース、図中 d のように建物と歩道の間に

できているサブスペース等である。特にノード型の形にバリエーションが見られ、b は広いグループワークのための活動場所になっており、a は車いすのUターン等にも使える場所となっている。歩道の形状の特徴としては8の次型の歩道で回遊性を確保しているとともに、それぞれの円形の形やサイズを変えることによって多様なサ

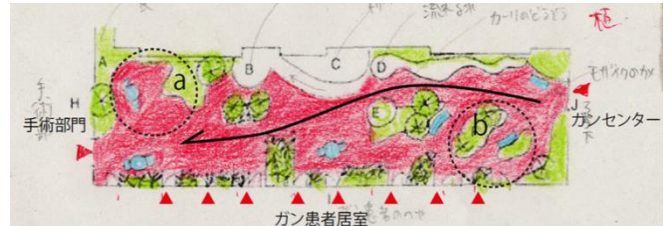


図 2 ガーデン 2 平面図



図 3 東側からの眺め



図 4 ヒーリングアート

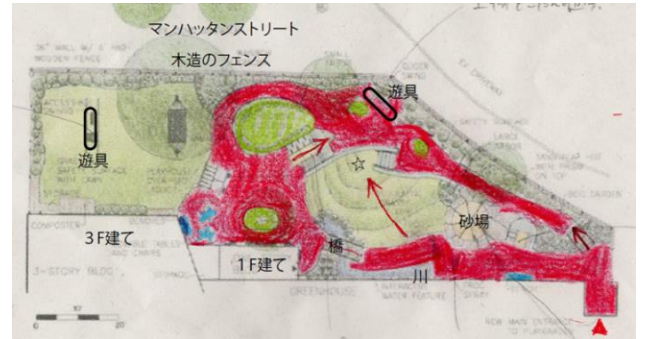


図 5 ガーデン 7 平面図

表 5 平面エリアの形態

| 平面エリアの形態 | 平面エリアの形態 | 特徴 |
|------------------------|----------|---|
| 建物または敷地と、歩道の間にできる平面エリア | | 建物や歩道と歩道との間にできるスペースで、草壁エリアとして用いられる頻度が高い。周囲一部は必ずできるが、中庭の場合、壁との関係を考慮する |
| 歩道に囲まれた平面エリア | | 歩道に囲まれたスペース。これは、家庭の中庭等にできることが多く、公共的なスペースや多人利用のスペースとして多く利用される |
| 歩道が一部拡張した平面エリア(ノード型) | | 歩道が拡張し、スペースをつくるもので、ベンチを置くなどして休憩としても使われる。円形のもの、車いすやベットのUターンにも有効である |
| 緩衝材による平面エリア | | 壁がはっきりしないエリアでの休憩所が取り分としてよくみられる。視界が開けている。プライベート性はあまりない |
| 歩道を区切った平面エリア | | 壁も無いプライベートスペースが形成される。歩道の形状が拡張や縮小の異なるスペースを併せ、区切ったスペースの外側エリアは、開けたいという意向 |

図 8 ガーデン 5 平面図



図 9 図 8 中 b のパビリオン



図 10 風の小径

ブスペース為の平面エリアを形成していると考えられる。

3-2-3 設計手法

①歩道計画と平面エリア

各事例から得られた平面エリアの形態を表5にまとめた。また、各事例ごとの分類を表6にまとめた。歩道計画において、回遊性のある円形が複数ある物がメインの歩道になっているものが多く見られた。子どもたちをはじめ利用者の動きの連続性を保証し、車いすの利用者にとっても滑らかな移動を提供していると考えられる。これに関しては、Cooper からもガイドラインの内で、「回遊性のあるスロープが子供たちに遊びや探検の機会を提供する」と述べており、歩道自体に遊び要素を入れることが質のちがったサブスペースの一つになり有効である。また、回遊性のある歩道のそれぞれの円の大きさや形を変化させることで、平面エリアの多様性が確保され、サブスペース形成の重要な要素になるのではないかと考えられる。

ノード型に関してはCooper からも「通行のための円形ノードは車いすがバックする等、連続的に次の場所へ移動するのに有効である」と述べており、重要であると考ええる。

②地形

ガーデン7(図5)は目的地型の歩道がみられた。これは地形も立体的であり、歩道と平面エリアそのものが遊具のようにになっている。地形の操作をすることで、歩道以外にもルートを作り出していけると考える。これに関して、Seattle(1986)ら⁹⁾は「明白な達成地点は子供を奮い立たせ、欲求不満を残さないために成功と達成の証拠が必要である」と述べており、目的地型は子どもの自主性を引き出すことに有効であると考えられることができる。

表6 対象事例の歩道と平面エリアの形態

| 番号 | ヒーリングガーデン名 | 歩道の形態の図 | 平面エリアの形態の図 |
|----|----------------------------|---------|------------|
| 2 | Children's of Dreams | | |
| 3 | The Friendship Garden | | |
| 5 | The Children's Garden | | |
| 6 | Olson Family Garden | | |
| 7 | The Children's Play Garden | | |
| 19 | ルーフコートヤード | | |
| 20 | 屋上庭園(宮城) | | |

第4章 利用行為における物的要素への影響

本章では、ヒーリングガーデンの利用観察調査から行為・遊びの機会を誘発する物的要素に関する分析をした。

4-1 行為・遊びの機会を誘発する物的要因に関する分析

4-1-1 調査概要

ホスピタルフォレストでのイベント時に地域の親子20組とスタッフ6・7名の利用方法観察より、遊びの機会や行為を誘発する物的要因を写真とメモによって記録した。

場面抽出手法としては、遊びの機会や、行為を誘発する物的要因が関係するかわかる場面を抽出する。それぞれの場面の様子と物的要素が子どもに対してどのように作用したかの考察を記す。

4-1-2 場面抽出と考察

遊びの機会・行為の誘発の物的要因は自然要素・屋外での人工的な物の二つに分けられた(表7)。人工的な物の例を挙げると、屋外にある固定された長椅子では、安定した面や高さの性質から子どもたちの机として使う(図11)・椅子に足をかけるといった行為を誘発していた。また、ベンチに施された顔のヒーリングアートに正対していた子ども(図12)にはアートがその一人遊びを誘発する物的要因であったと考えられる。自然要素の例をあげると、自然の中の物質で珍しい形や鮮やかな色の実、とげとげとした植物の実などのそれ自体の素材感・色・形といったユニークな性質が、利用者の遊びの機会・行為の誘発の物的要因になっていると考えられる(図13)。

また、物的要素の高さが行動を誘発する要因として複数該当したことから、行為・遊びの機会の誘発において重要な要素と考えられる。図14は目線の高さのむかごの実を手取る子どもである。植物に関しても高さが子供たちの視界に入り手の届くものでなくては、行為は誘発されにくいと考えられる。

4-1-4 設計手法

まず高さに関して、屋外の椅子であったら、ひとつの設備でできるだけ多くの人利用しやすさを考えると、例えば机と椅子に関しては、5歳程度の机の高さと、大人の椅子の高さが双方とも使用可能となると考えられる。また、ヒーリングアートや自然の造形美が見られるものに関して、子どもや大人も触るといった行為が見られたことから、これらの要素は積極的な導入が望ましいと考えられる。自然が遊びの機会を誘発することに関して、Cooper らは、「とげのあるものやかゆみが出るもの毒性の物は避けなければならない、反対に子供たちが自由に摘んでもよい花でネックレスをつくって送り合う、花びらを数える、嗅ぐなどすることが遊びの非常に良い機会なので、植物の感触・匂いの特徴的な植物の導入はよい」と述べており、これと併せて考えても自然の要素は十分に子どもたちの遊びの機会の誘発に効果があると考え

表 7 行為の物的要素と場面抽出

| 人工/自然 | 物的要素 | 要因 | 誘発された行為 | |
|-----------|---------------|---------------------|----------------------------|----------------|
| 人工的環境 | 顔型のHAが施されたベンチ | アート、顔同士の高さ | 顔のあるベンチの背もたれとの対峙 | |
| | | 安定した平面、高さ | ベンチサイドに立って机として利用し文字を書く | |
| | | 安定した平面、子ども | ベンチ前にしゃがんで手をつく(プレイリーダー) | |
| | スノコ状長椅子 | 安定した平面 | ベンチに膝をつき、覗き込む | |
| | キノコ型チェア | アート、高さ | キノコ型チェアへの着席 | |
| 人為的地形 | 石の長椅子 | 安定した平面、高さ、広さ | 長椅子をみんなで作品を並べる4机とする | |
| | | 大人からの支え、不安定さ | シートハンモックに包まり上部を見上げる | |
| | シートハンモック | 大人からの支え、不安定さ | シートハンモックに包まり上部を見上げる | |
| | 少し高くなった地面 | 安定した平面 | 少し高くなった地面の端に立つ | |
| | 自然的環境 | 木 | 素材感、形 | 木に触れる(保護者) |
| | | | 素材感、樹幹の太さ | 大きな木に抱き着く |
| | | 切り株 | 切り株の高さ、断面の広さ | 切り株でバランスを取る |
| | | | 落ち葉 | 清潔さ(紙が汚れない) |
| | | やわらかさ、清潔さ | | 落ち葉の地面に直接膝をつける |
| | | やわらかさ、清潔さ | | 落ち葉の上に寝転ぶ |
| 落ち葉・ドングリ等 | | 落ちているもの、落ち葉の積層 | 地面に視線を向けて何かを探す | |
| 落ち葉、キノコ | | 頭が少し除いているキノコ、落ち葉の積層 | 足で落ち葉を探ってキノコ全体を見ようとする | |
| 木の実 | | 実、色、とげとげ、くつつく、等 | 木の実を手取る | |
| むかごの実 | | 実、萼、目線の高さ | 実を手にとる | |
| 竹(亀甲竹) | | 珍しい表皮 | 竹に触れる | |
| 竹の根 | | 面白い形 | しゃがんで観察をする | |
| 保護者・スタッフ | | 見つけたもの、報告 | 子どもが保護者・スタッフに見つけたものの報告をする | |
| なにかの発見 | | 子どもだけの発見 | 子どもだけで何かをみつけしゃがみ込む・覗き込む | |
| 自然的地形 | | 少し高い地面と、数本の木の囲い | 親子が橋の少し高い地面と数本の木に囲われた所での休息 | |
| 音 | 馬の声、見えない姿 | 馬の声に反応して声を出す | | |
| 景色 | ひらけた視界、生き物 | 木の上に何か生き物を発見し、見上げる | | |
| | 木、空、美しい景観 | 上部を眺める | | |

みて明らかにすることを目標としてきた。子どものためのヘルスケア施設におけるヒーリングガーデンの事例の面積規模と空間エリアに関する分析から、質の違ったサブスペースをつくるにはある程度以上の面積と、設計時の明確なコンセプトが必要であるのではないかということを明らかにし、また、歩道計画と平面エリアに関する分析から、様々な質の違ったサブスペースをつくるためのヒーリングガーデンには、回遊性や円形のノード型による移動の連続性と、子どもたちの自主性を引き出すことにおいて目的地型の有効性を確認した。さらに、実際の子どものためのヘルスケア施設におけるヒーリングガーデンの利用観察から、利用者の行為・遊びの機会を誘発する物的要因について分析し、遊びの機会の誘発においてアート要素は人工的、自然的にかかわらずアート要素が感じられるものに行為を誘発されていることや、その際には目線以下の計画が重要であるのではないかということを明らかにした。

5-2 展望

日本においては、まずヒーリングガーデンの必要性の認識が広まる必要があると考えられる。そのためには、市民やスタッフを巻き込みながらヒーリングガーデンを計画・管理などをしていくユーザー参加に今後のヒーリングガーデンの展望の可能性があると考えられる。実際にユーザー参加によるヒーリングガーデンの設計者である篠原は、設計者としてのプロデュースの役割について「設計者としてのプロデュースの役割とは、人の関係を仕掛けていくこと・状況づくり・コンセプトを叶えるために提案していくことの3つである」と述べている。設計者がプロデュースの役割を担うことで、ヒーリングガーデンについての認知が広まり充実した施設がふえることが望ましい。また、Cooperら³⁾が「POE(入居後施設評価法)調査が今後のヒーリングガーデンの発展にかかせない」と述べるように、POE調査による改善がなされていくと望ましい。

参考文献

- 1) Cama, R., Evidence-Based Healthcare Design, Hoboken, NJ: John Willey and Sons, 2009
- 2) Ulrich, R. S. View through a Window May Influence Recovery from Surgery, Science, 224(4647):420-421, 1984
- 3) Clare Cooper Marcus, Naomi A. Sachs, Therapeutic Landscapes, Willy, October2013.
- 4) Robin C. Moore, Susan M. Goltsman, Daniel, PLAY FOR ALL Guidelines, Communications, second edition, 1992
- 5) Seattle, City of. Guideline for play Areas: Recommendation for planning, Design and Maintenance. Settle, WA: Department of Parks and Recreation, 1986

られる。



図 11 机となるベンチ 図 12 顔の造形と対峙する男児



図 13 竹に触る女児 図 14 実を手取る女児

第5章 総括

本章では本研究を通して明らかになったこととこれからの子どものためのヘルスケア施設におけるヒーリングガーデンの展望を記す

5-1 設計手法のまとめ

本研究では、子どものヘルスケア施設におけるヒーリングガーデンの計画に関する指針を、設計者の立場から